

令和6年度 秦野市行財政調査会における委員からの主な御意見について

参考

議事Ⅰ 令和6年度の行財政調査会について

箇所	委員御意見	事務局の対応
資料1「はだの行政サービス改革基本方針実行計画の進行管理実施期間及び内容」の令和8年度について	令和8年度に総括評価するとあるが、令和7年度で評価が終了しているため、不要ではないか。	最終的な実績は令和8年度となるため、そのような書きぶりでしたが、令和8年度は、実績を踏まえた報告程度となるため、表現を改めます。
資料2「はだの行政サービス改革基本方針実行計画の改定について」の改定基準について	<ul style="list-style-type: none"> ・目的達成におかって、アウトプット、アウトカムについて弾力的な運営をするためには、フレキシブルに運用できる形、改定できるとした方が良く考える。 ・アウトプット、アウトカムの改定に当たっては、定性的な目標は改定が難しいが、定量的な部分は改定しても良いと考える。 	アウトプット、アウトカムにあたる目標は、総合計画とリンクしているため、改定していません。新しい計画では、アウトプットとアウトカムの結びつきをより強くしたいと考えますが、継続性も大事だと考えます。数値的な見直しは行いましたが、目標設定自体の修正は慎重に考えたいと思います。
	「弘法の里湯」は取組が後退するものであるが、何故そうってしまったのか原因が資料に示されていない。取組が後退する場合は、次の目標をどのようにするか示す必要があると考える。取組を先送りしないためにも、目標が必要である。	コロナ禍により、指定管理者に求める市の条件等が整わなかったこと、また、鶴巻温泉の地域活性化のためには、直営のままだが良いという考え方もあり、施設が平常に運営できる状態になってから、改めて、指定管理者制度の導入の可否を含めて、検討を進めていくこととしました。 今後の改定についての資料作成に当たっては、御意見を踏まえ、改定の理由を記載します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・実行計画において、改定箇所が分かるようにした方が良く。また、各取組内容の目標を変える、変えないの判断基準が、不明瞭だと感じる。特に、取組目標を下げる見直しは、目標を見誤ってしまうと意味がなくなってしまう。 ・原則、取組目標を下方修正しないと、仮に下方修正するのであれば、納得できる理由を示す必要がある。 	当初から実績があるものは、目標設定しやすいですが、例えば、管理職になりたいと思う職員の割合など、目標設定しにくいものもあり、そうした場合に、実績を踏まえて目標値を修正することがあると思います。今後も議論の中で、適切な目標設定を行いたいと思います。

箇所	委員御意見	事務局の対応
<p>資料2「はだの行政サービス改革基本方針実行計画の改定について」の目標の設定について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定に当たっては、ここまでは達成できないといけないという極限値を把握することが必要で、こうした目標数値の妥当性は、あるべきビジョンを実現するための目標であるという視点で設定されるべきである。 ・秦野市のビジョンを実現するための各組織のあるべき姿や目指すものについて、行政経営課と各組織とで数値目標を含めて、策定していくべきだと考える。組織のダイナミズムを作ること、組織のイノベーションを起こすことで、本当に頂点となる目標を達成できるのかという視点が重要であると思う。 ・そうした考えが行政の外からみても、分かりやすいように表現することが重要である。工夫の余地があるように考える。 ・取組については、法令の部分とそれ以外の部分との切り分けがあって、法令以外の部分では、戦略的なプロジェクトでメッセージ性が出せると思う。 	<p>この計画では、行政サービスの切り取りとなっており、組織全体の目標は、総合計画の中で示されています。いただいた御意見を踏まえて、新しい計画の策定をしていきます。</p> <p>本市のビジョンの実現については、いただいた意見を総合計画所管課に提供いたします。これ以外のものについては、いただいた御意見を踏まえて、新しい計画の策定をしていきます。</p>
<p>資料2「はだの行政サービス改革基本方針実行計画の改定について」の国民健康保険事業特別会計繰出金の抑制の取組部分の効果額の記載について</p>	<p>特別会計と一般会計の重複分を除き、一般会計に計上を一本化したとあるが、正しくないと考えます。各会計は独立しているので、重複計上も問題はなく、合算した際に重複分を除くべきである。一般会計と特別会計それぞれの効果額を記載した後、「純計」として、重複分を除いた金額を記載する形が正しいと考えます。</p> <p>仮に計上を一本化するならば、国保レセプト点検の強化やジェネリック医薬品の使用促進の取組が繰出金の抑制につながり特別会計における取組であるので、特別会計に計上するべきである。</p>	<p>御意見を踏まえ、今年度の改定時期（令和7年3月）に修正します。</p>

議事2 今後の行政サービス改革について

箇所	委員御意見	事務局の対応
資料4「時代の潮流と秦野市の現状について」の資料を踏まえ、御意見を自由にいただきました。	これからは、子育て・こども施策が重要で、前面に出して強化していく必要がある。体制の面でも強化が必要である。	令和8年度から始まる新しい計画を策定するうえで、参考とさせていただきます。
	CO2可視化ツールやJ-クレジット(温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして国が認証する制度)、ISOを活用したSDGsなど、銀行でも中小企業の脱炭素化を支援しているが、そうした取組を進める中小企業に対して、市がフォローしていくことで、「工業が元気なまち秦野」の実現につながると思う。	
	将来人口推計では、人口が12万人に減るとされるが、市の経営が成り立つのかと思う。行政運営を行ううえで、視点として重要である。対策としては、75歳定年制など就労可能人口の幅を広げること、女性の活躍を促進すること、AIを活用すること、外国人労働者を増やすことが考えられる。特に、外国人労働者についてカバーしていくことが必要である。 また、高齢者人口増の対策としては、元気な高齢者を増やすこと、健康寿命を延ばす取組が重要である。	
	何をもって行革を進めていくかというところで、人口に関する取組は必要な要素だと考える。最近では、近隣市や秦野市でも人口増の傾向というが、要因を分析し、どういった部分を攻めていけば人口増につながるか、攻めの行政運営が必要だと思う。そうした政策のベースとなる資料を東海大に依頼するといった協働も良いと思う。	
	今後の行政サービス改革について、「質の改革」を「量の改革」につなげる視点がイメージしづらい。また、デジタル化に質の改革の全てを負わせるのは難しいと考える。量に頼らない質の維持、質をどう考えるか、秦野にとってのウェルビーイングとは何かという視点で考えていくことができると良いと思う。	

箇所	委員御意見	事務局の対応
資料4「時代の潮流と秦野市の現状について」の資料を踏まえたうえで、御意見を自由にいただきました。	<p>「データサイエンス」や「データフィケーション」という、データ化したことによって付加価値を生み出すことが重要な要素で、政策部門が改めてデータに価値を付けることができるため、こうした取組を長期的に1歩ずつ取り組むことができると良いと思う。</p>	令和8年度から始まる新しい計画を策定するうえで、参考とさせていただきます。
	<p>コロナ禍を経験して、フェイス・トゥ・フェイスで感じられる安心感を再認識したと思う。また、生存していくうえで、人間関係も含めて、必要なものを維持していくことの重要性を再確認したと思う。 そうした機能を維持していくため、「労働者協同組合」による地域を支える事業の展開が期待される。こうしたものが広がりを見せると、市民が行政に頼らずにライフサポートができるようになっていくと思う。</p>	
	<p>これまでの行財政改革では、「協働」の部分が弱いと感じる。例えば、再配置計画の認知度をあげるために、無作為抽出で市民の意見をきくなど、取組を進めるうえで、市民が直接政策に関わる仕組みを考えると良いと思う。</p>	
	<p>この市に住んで良かったという、秦野市への帰属意識を持たせることが重要だと考える。市民にとって最も喜んでもらえるものは何か考え、市民に向けて関心を持って行動していくことが、サービスの水準を上げていくことにつながると思う。そうした質の改革の結果、職員数の削減にもつながると思う。</p>	
	<p>この街なら住みたいという方向性を出すのが重要だと考える。子育て・高齢者が住みやすい街であったり、秦野の土地利用、山林、里山、水の有効活用など、ビジョンにできるはずだと思う。 資源の有効活用という部分では、例えば、バイオマス事業やCLT（直交集成板）による住宅建築の流れがある中で、秦野の木材使用を検討・拡充するなど、新しい産業を考えていくことが必要だと思う。</p>	

箇所	委員御意見	事務局の対応
資料4「時代の潮流と秦野市の現状について」の資料を踏まえたうえで、御意見を自由にいただきました。	政策評価に当たっては、都市比較や連携する市と比較して、要領良く縮充を進めていくための評価の中核の役割を、東海大学に依頼することもできると思う。	令和8年度から始まる新しい計画を策定するうえで、参考とさせていただきます。
	職員の改革では、前向きなメッセージを発信し、新しい挑戦をする職員を評価する仕組みが重要であると考えて。また、何を行政として残すと良いサービスになるかを考えて、少ない職員数でも良いサービスとなるようにしていくことが必要であると思う。	